

## 被災地の移りかわり



東日本大震災の発災から10年が経ちました。どの地域でも新しい街ができてきています。しかし「復興が完成した」と言い切れるには早い気がします。まだまだ私たちの力を必要としている方々が多くいらっしゃいます。また、様々な地域で自然災害が発生し、新たなボランティアが必要となっています。一人でできる力は小さいですが、一人の力が集まれば誰かの役に立つことができると思います。ぜひみなさんの力を貸してください。

本冊子では、東日本大震災についての特集ページを設けています。ぜひご覧ください → p10・11

## 学生ボランティア支援に関するホームページやSNS

課外・ボランティア活動支援センター

[https://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page\\_id=7395](https://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395)

東北大学の学生ボランティア支援

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentlife/02/studentlife0210/>

東北大学ボランティア支援学生スタッフ SCRUM

<https://scrum-tohoku-univ.jimdofree.com/>



@TOHOKU\_VOL



@voltohokuuniv



@scrum\_1446

ボランティア情報  
メール配信  
サービスはこちら



# Volunteer Seminar Journal Vol.16

公式サイトへはこちらからアクセス！  
<https://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>



発行日 令和3年(2021年)4月1日

発行者 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 課外・ボランティア活動支援センター  
〒980-8576 仙台市青葉区川内41 TEL.022(795)4948

©2020 Tohoku University Printed in Japan

東北大学高度教養教育・学生支援機構  
課外・ボランティア活動支援センター



# Volunteer Seminar Journal Vol.16

2021 Spring  
ボランティアセミナージャーナル



ボランティアへの  
新たな一歩を  
応援しています!

Pick Up! 表紙写真エピソード



たなぼた

住民さん方とお茶をしながら折り紙をした際の写真です。和気あいあいとした雰囲気の中で、思いつきや趣味の話などいろいろな話を伺いました。不安な一人暮らしへのアドバイスなども聞けて、とても勉強になった一日でもありました。

キッズドア

生まれてきた環境や災害によって困難な状況にある子どもでも夢や希望を持ってステップアップできるよう、生活困窮家庭などの中高生を対象に無料学習会やキャリア教育を行っています。和気あいあいとした雰囲気、大学生にとっても嬉しい場になっています。



高校生支援団体bridge

2019年12月5日と同月15日、尚絅学院大・仙台高専と協同で、中高生および大学生を対象とした学習会イベント「MANABIPPO 学び×一歩」を開催した。写真は、2日目のイベントにおいて、「エンジニアリングデザイン」の手法の一つである「ファンクショナルアプローチ」を用いて、中高生と協力して図書館の機能分析を行っている様子。



ReRoots

自分たちで育てた野菜や被災農家の野菜を販売する活動に取り組んでいます。週に一度の移動販売に加え、写真のようにイベント出店も行います。おいしい野菜を通して、地域の魅力を発信し、地産地消を推進していきます！

INDEX

東北大学のボランティア支援

課外・ボランティア活動支援センターについて ..... 4,5  
 東北大学 SCRUMについて ..... 6,7  
 ボランティアと私 ..... 8,9

東日本大震災から10年

東日本大震災を学ぶ ..... 10,11  
 防災を学ぶ ..... 12

SCRUMの活動紹介

岩手県での活動 ..... 13  
 宮城県での活動 ..... 14  
 福島県での活動 ..... 15  
 緊急災害派遣 ..... 16,17

ボランティア団体の紹介

団体一覧 ..... 18,19  
 震災関係 ..... 20,21,22  
 防災 ..... 22  
 国際 ..... 23,24  
 教育・学習支援 ..... 25,26  
 貧困 ..... 27  
 地域支援 ..... 27  
 環境 ..... 28  
 キャリア・若者 ..... 29  
 様々なボランティア体験談 ..... 30,31  
 各種SNS情報 ..... 32



# 課外・ボランティア活動支援センター

課外・ボランティア活動支援センターでは東日本大震災の復興支援をはじめとする、様々なジャンルの学生ボランティア活動の総合的支援と、ボランティア活動を取り入れた授業(サービスマニカ)の開発・実施を行なっています。キャンパスを飛び出して、地域を知り、人と出会うボランティア活動は、様々な現代社会の課題を学ぶきっかけにもなります。課外・ボランティア活動支援センターでは、皆さんが実際にフィールドに出て活躍する場を提供していますので、ぜひ積極的に活用してみてください。

## ボランティア活動に参加してみたい方へ

ボランティア団体の紹介イベントから、ボランティア体験プログラム、講演会・セミナー、ボランティア情報の配信サービスまで、ボランティア活動に触れることのできる様々な機会を用意しています。ぜひ皆さんも、興味関心や生活スタイルにあったボランティア活動に参加してみましょう!

- ① 学生ボランティア団体に所属してみる → p18~29
- ② 学外のボランティア団体・NPO等に参加してみる → p18~29
- ③ ボランティア活動のコーディネートや企画運営と一緒にやってみる → p6,7
- ④ ボランティア・フェア(ボランティア団体の紹介イベント)に参加してみる
- ⑤ ボランティアツアー・スタディツアー(ボランティア体験プログラム)に参加してみる
- ⑥ ボランティア情報メール配信サービスに登録してみる

右のQRコードから!



## 東日本大震災やボランティア関係の授業に関心のある方へ

東日本大震災被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して社会に貢献しながら学ぶことのできる科目を、以下のように開講/開講協力しています。授業を通して現場に飛び出し、一緒に学んでみましょう!

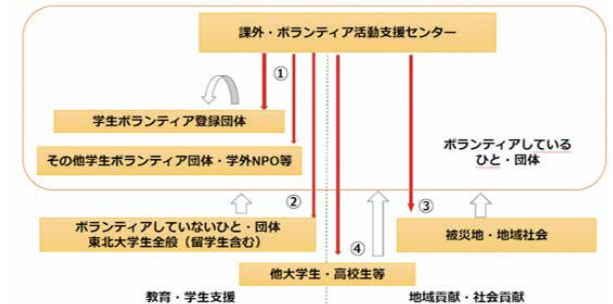
| 科目群  | 授業題目                             | 担当教員              | 開講時期      |
|------|----------------------------------|-------------------|-----------|
| 基幹科目 | 社会の構造「東日本大震災からみる現代日本社会」          | 松原久、高橋結           | [2S,4S]月4 |
| 基礎ゼミ | 共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント  | 高橋結               | [1S]月4    |
|      | 被災地復興の課題に取り組む                    | 松原久               | [1S]木5    |
| 展開ゼミ | 「復興」を学際的に考える                     | 呂本俊亮、芳賀満、松原久、佐藤翔輔 | [1S]月3    |
|      | 課題解決型(PBL)演習A<br>「被災地復興の課題に取り組む」 | 松原久、高橋結           | [2S,4S]木5 |
| 展開ゼミ | 「復興」を学際的に考える                     | 呂本俊亮、芳賀満、松原久、佐藤翔輔 | [2S,4S]木3 |

※下線部は、課外・ボランティア活動支援センター教員

## 課外・ボランティア活動支援センターが提供する支援のイメージ

学生ボランティアをめぐる様々なつながりを生みだす支援を行なってきました。

大学内では、①学生ボランティアを支える支援として、物品・場所の提供、相談対応などに加えて、学生同士のつながりづくりを行なってきました。②学生ボランティアの裾野を広げる支援として、ボランティアしていないひと・団体とボランティアしているひと・団体を



※赤矢印=センターの支援、白矢印=その結果として生まれるつながり

ないひと・団体とボランティアしている団体・ひとをつなぐ企画(ボランティア・フェア等)を実施しています。

大学外では、③学生ボランティアと被災地・地域社会をつなぐ支援として、講演会、ボランティア活動の企画提案等を進めています。さらに④国内外の高校・大学とつなぐ支援として、連携・交流を促す企画(交流会等)を推進しています。

## 東北大学生によるボランティア活動の広がり

|                                 | ボランティア活動の動き                                   |
|---------------------------------|---|
| 東日本大震災以前                        | 学外のボランティア団体・NPO等への参加といった形が中心                  |
| 東日本大震災後                         | 被災地支援を目的とした学生によるボランティア団体設立などが活発化するものの、徐々に停滞   |
| 東日本大震災学生ボランティア支援室の発足(2011年6月)以降 | 被災地におけるボランティア体験プログラム(ボランティアツアー・スタディツアー)の積極的展開 |
| 課外・ボランティア活動支援センターの発足(2014年4月)以降 | 被災地に根ざした学生による自主的なボランティア活動の活発化                 |
| 現在                              | 被災地以外の地域においても、学生による自主的なボランティア活動の活発化           |

東日本大震災をきっかけに、被災地に飛び出してボランティア団体を立ち上げる学生の動きが活発化しますが、学業との両立、団体運営などの課題も同時に生まれることとなりました。

そのなかで東日本大震災学生ボランティア支援室では、学生団体の運営をサポートするとともに、被災地におけるボランティア体験プログラムを積極的に実施し、多くの学生が被災地・ボランティアに触れるきっかけを提供してきました。現在でも、被災地に根ざした学生主体のボランティア活動が継続しており、復興支援以外をテーマとする地域に根ざした活動も活発化しています。

2021年現在は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、従来通りの活動継続は困難な状況です。しかし視点を代えれば、地域・社会が抱える今の課題と向きあって新たな活動を考えるチャンスにもなっています。

# 東北大学SCRUM

東北大学SCRUMは課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフ組織です。ボランティアを「したい人」「している団体」のそれぞれに向けた活動・企画を行っております。また、充実した中間支援を行うため、SCRUMメンバー自らが被災地に足を運びボランティアを行っており、さらに被災地に限らない多様なボランティアや勉強会の企画・実施も行っております。SCRUMでは「活動における3つの柱」を掲げており、以下で説明いたします。

## ボランティア

SCRUMメンバーは東日本大震災で被災された岩手県、宮城県、福島県の東北3県や熊本地震・西日本豪雨・台風19号で被災された地域でのボランティア活動を行なっています。他にも、被災地以外でのボランティア活動の展開も行なっています。

## 学ぶ・深める

SCRUMには、震災に限らず、自分の学びたいことを勉強し、他の学生に伝え、問題解決のために活動するグループが3つあります。震災伝承部、人権共生部、国際部の活動については7ページをご覧ください。

## ボランティアのボランティア

ボランティアはしたいと思ってすぐにできるようなものではありません。SCRUMは、ボランティアをやりたい人と、ひと・団体を繋ぐ「ボランティアのボランティア」をしています。ボランティアしたい人々に対してはボランティア活動の広報を行なって、他のボランティア団体とは合同企画の実施や情報共有・連携を行っています。SCRUMはセンターと協力して、ボランティアフェアの運営や団体間交流会の実施、ボランティア情報を掲載する「ボランティアセミナージャーナル」の発行など、様々な形でボランティアの輪の拡大と充実を図っています。

# 東北大学SCRUM

## ボランティア

- ぽかぽか (P13)
- インクストーンズ (P14)
- 福興youth (P15)
- 緊急災害派遣 (P16,17)

## 学ぶ・深める

- 震災伝承部
- 人権共生部
- 国際部

## ボランティアのボランティア

活動地を限定せず、それまでのボランティア活動の中で出てきた問題意識に対してテーマを設定し活動する「学ぶ・深める」の紹介です。それぞれのグループで勉強会や問題解決に向けた活動を行なっています。

## 震災伝承部

震災伝承部は、様々な東北沿岸地域に赴き、東日本大震災について学び、発信することを目的に活動しています。ビデオ鑑賞会やスタディツアーを主な活動の軸に据え、1つの側面、1つの地域に限定せず、広く震災や復興について学んでいます。また、よそ者だからこそ気づける地域の魅力にも目を向け、発信することも伝承部が大切にしています。ぜひ1度東北を訪れ、震災について考えてみてください。



▲気仙沼・陸前高田ツアーの様子



▲オンラインイベント「東日本大震災を聴こう、語ろう」の様子

## 人権共生部

人権共生部、通称「ひととも」では、活動のテーマを震災に限定せず、普段の生活を送る上でなかなか話題に上がらない、でも知っておきたい人権問題についてみんなで気軽に学びます。1回1回テーマを決めて、知識を共有し議論をする勉強会を行ったり、身近なものとして人権問題を見つめなおすために、実際にボランティア活動や見学を行ったりします。これまで、ジェンダー、ヘイトスピーチ、孤独死、子どもの貧困などを学びました。



▲ボランティア活動ふりかえり会(子どもの貧困)



▲性の多様性についての勉強会ポスター

## 国際部

SCRUM国際部(IDeS)では、東日本大震災に関心のある留学生を集め、南三陸で語り部の方のお話を聞いたり住民の方々と交流したりするツアーを実施しています。コロナ禍においては、まず日本に興味を持ってもらうことを目的に、交流企画なども行なっています。日本のみならず世界にも目を向け、震災の記憶を語り伝えていくことができれば良いと考えています。現地の方々と留学生の橋渡し役として一緒に活動してみませんか？



▲神割崎での記念撮影



▲語り部のお話を聞く様子



ボランティアと私

SCRUMは多くのメンバーが所属するサークルです。ここでは、SCRUMでの活動を通して価値観や人生が変化した先輩方を紹介します。



2019年度  
工学研究科博士  
前期課程修了  
小林 大一郎

主な活動

- ・ほかほか
- ・熊本派遣

大学に入って初めて東北に来た自分にとって、被災地はテレビの中の世界でした。そんな被災地を実際に見たいと思い、友人の行っていた陸前高田ボランティアツアーに参加しました。ボランティアには縁のないと思っていた私が被災地に通い続けることで、現地の魅力や復興について様々なことを学びました。被災地の復興計画に興味を持って学部2年生のときに工学部の建築学科へと転学科をしました。人生を左右する決断だったと思います。この活動を始めたことが、たくさんの人と出会ってコミュニケーションをとるきっかけとなりました。これまで狭い交友関係で育ってきた私にとってさまざまな刺激をもらい、自分の世界が広がりました。



▲住民さんと「ハイ、チーズ！」

大学時代、被災地でのボランティア活動を思い返して浮かぶのは、避難先での辛い出来事を涙ながらに語ってくださったおばあさん、震災直後のまちの様子やご遺体を運んだ経験を語ってくださった区会のおじさん、震災後2ヶ月の熊本で散らかってしまった家財の片付けを見守る家主のおばあさん。「被災者」と括った時に見えなくなるひとりひとりの物語があり、「被災者」という人は一人もいないことを教えてもらったと思っています。



▲福島県いわき市でのお茶会の様子

今、TEDICというNPO法人で、事務・平日日中の小中学生の居場所の担当職員をしています。「子どもの貧困」「不登校」などの言葉が含みきれないひとりひとりの話・思いを大切に、そこに向き合いたいと思って活動しています。



2020年度文学部卒  
大庭 佳乃

主な活動

- ・福興youth
- ・人権共生部
- ・ほかほか
- ・熊本派遣



工学部4年  
高嶋 優佑

主な活動

- ・ほかほか
- ・熊本派遣
- ・丸森派遣
- ・人権共生部

大学入学後、初めてボランティア活動を行ってから、それまでの生活と大きく変わったと感じることは「社会」に触れる機会や考える機会が多くなったことです。今までの学校という中だけで完結した世界だったものが、ボランティア活動を通して、被災した地域や現地の方、共にボランティアとして活動する方やNPO法人等で活躍する方々など、様々な価値観や年代や背景を持った人や地域に赴き、活動を行うことができ、今まで自分が見てきたものがいかに小さな世界だったかを痛感するとともに、この3年間で大きく自分の中の世界が広がっていきました。また、そのような方々と、どのような社会であれば多くの人がより良い暮らしを送れる社会になるかということと一緒に考えながらボランティア活動することも魅力の1つだと思っています。

まだまだ、書ききれないくらいボランティアの魅力や活動を通して成長したことがたくさんあります。



▲伝統行事に参加しています！

今年は被災地の住民さんと直接関わる活動ができないうちで、勉強会やスタディツアーで色々な方のお話を聞く機会が増えたので、ボランティアとは何なのか、私にできることは何なのかといったことを考えることが増えました。その中でも強まったのが、たくさんの人に被災体験を直接聞いてほしいという思いです。気仙沼やいわき市の語り部さんに共通していたのが、津波を侮っていたとおっしゃっていたことです。近年の異常気象によって海の近くでなくとも水害に遭う可能性はあります。その際にこうしたお話を聞いたことがあるかどうか避難の早さに関わるのではないのでしょうか。なにより、ぐしゃぐしゃに潰された車の前で、ご自身が津波にのまれたお話を聞くのはとても衝撃的でした。こうした経験をより多くの人にしてもらえよう、外部に発信する活動を増やしていけたらと思うようになりました。



▲いわき市薄磯海岸で一枚



教育学部3年  
日野原 柚葉

主な活動

- ・福興youth

私は元々、震災について知りたいという思いで活動を始めました。内容としては、復興公営住宅でのお茶会や震災伝承施設の視察などでした。活動先は石巻を中心に、岩手から福島まで広く訪れました。活動に行くとき喜んでくださる住民の方も多く、充実していましたが、震災を学ぶという思いが中心にあった自分は、当初「被災地」で「被災者」にお話を聞いているという感覚が強かったと思います。そんな中、福島である方に「被災地という見方がそこで前を向こうとしている人の妨げになることがある」と言われ衝撃を受けました。自分は被災地というレッテルを貼ることで遠い問題のようにとらえていたなど。どの地域も自分の故郷と変わらない生活があったのだと気づきました。それ以来、被災地というのはその地域の一要素でしかないと考えようになり、地域の魅力にもたくさん気づけるようになりました。そういった地域の魅力や災害をより自分に近い問題と捉えたときの備えについてもっと発信していきたいです。



▲3大学合同 気仙沼・陸前高田ツアーの様子



理学部3年  
田中 駿介

主な活動

- ・インクストーンズ
- ・伝承部

# 東日本大震災を学ぶ

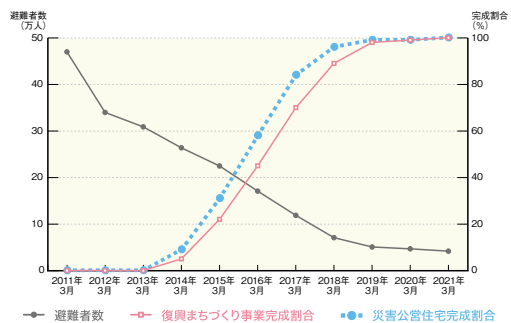
## 東日本大震災の概要

三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、最大震度7を観測しました。それに伴って発生した広範囲にわたる津波と、福島第一原子力発電所の事故は、現在も被災した各地に影響を及ぼし続けています。

震災によって生まれ育った場所に帰ることができなくなったり、長期にわたる避難生活を強いられたり、地域に帰っても人の数や町並みが大きく変わって生活しにくくなっていたり、場所やモノだけでなく大切な人を失った経験を持つ人もたくさんいます。

それでも東日本大震災の被災地は、災害の発生から10年が経過し、少しずつ変化してきました。仮設住宅から公営住宅に転居した方々の移転先でのコミュニティ形成など、震災を機に顕在化した課題は多く、学生ボランティアがお手伝いできることや学ぶべきことがたくさんあります。

## 東日本大震災の発災後10年の現状

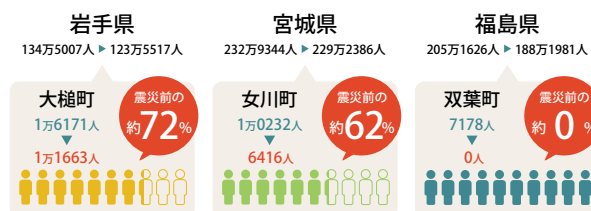


この10年間で、災害公営住宅の整備や復興まちづくり事業は完了し、発災後約47万人いた避難者は、2020年12月現在約4.2万人に減少しました。

しかし一人ひとりの視点から見ると必ずしも復興を実感できているとはいえません。未だ4.2万人の方が不自由な避難生活を強いられています。また、生活再建後もコミュニティの問題、心の復興の問題、高齢社会におけるまちづくり・地域づくりなどに関しても多くの問題が残っています。

## 被災地の人口変化

### 人口の比較 (2010年/2020年)



出典: 住民基本台帳

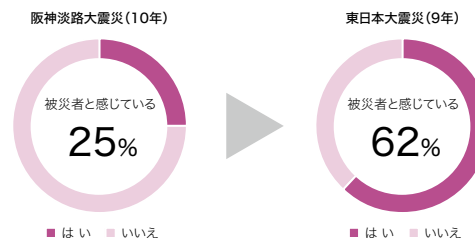
被災三県の沿岸部では、利便性の悪化やまちづくりの完成の遅れなどから、内陸部・近隣都市部で新たな住まいを求め方が多くなっています。その結果、人口減少・高齢化の進行も著しくなってきました。

さらに全住民が避難を続けており、生活を開始できるのは2020年春以降の地域(福島県双葉町)も存在しています。

## 被災者だと感じている割合

被災した方のうちの半数以上が、いまだに自身を「被災者」と感じています。

(出典: NHK)



## 被災された方の声

ここ(復興住宅)ではドアを閉めるとひとりきりになってしまう。なんとも言えない孤独感がある。男らしくないこというけど、泣きたくなる。(岩手県陸前高田市 60代 2014年)

震災から9年、10年という時間が経つと復興公営住宅において市からの補助金がもらえなくなり、集会所での集まりも減ってしまう。そんな中継続的に支援してくれる学生の活動は本当に助かります。(宮城県石巻市 70代男性 2019年)

## 11年目の被災地(者)とどう向きあうか?

### ①被災地(者)の課題に寄り添った支援

「被災地(者)の課題」は現在、地域ごと・人ごとに多様化しています。被災前のような生活を取り戻した方のすぐそばには「家族の犠牲」や「新たなまちでの生活」を受けとめきれない方がいらっしゃるかもしれません。被災地のなかにも「お互いに顔も分からないことによる孤立化」が深刻な地域から、「人口減少による伝統文化の消滅危機」に直面する地域まで存在しており、その地域ごと・人ごとに復興のあり方を考える必要があります。

▶▶▶ 地域・人の課題に寄り添った支援活動に参加してみよう

### ②復興の取り組みに学ぶ・活かす

被災地では、様々な課題に取り組む先進的な支援の仕組みや活動なども発展してきました。それらは東日本大震災以外の被災地や日本社会全体にとっても参考になるものです。また復興に向けて取り組んできた方のお話には、生き方としても学ぶべき部分が多くあります。

▶▶▶ 実際に取り組みの話聞いてみたり調べてみよう

### ③東日本大震災を知り、伝える

東日本大震災被災地では、二度と同じ被害を繰り返さないために、伝承施設や伝承プログラムが数多く存在します。また、海とともに生きる沿岸部の地域の魅力なども学ぶことができます。

震災の伝承に関わる個人・団体のネットワークである、3.11メモリアルネットワークには、2021年1月時点で、個人会員496名、登録団体70団体が参加しています。

▶▶▶ 実際に訪問し、防災の必要性や被災地の魅力などを五感で触れてみよう

<震災伝承施設の例>



津波遺構 たらう観光ホテル  
岩手県宮古市  
2016年4月  
公開開始



震災遺構 仙台市立 荒浜小学校  
宮城県仙台市  
2017年4月  
公開開始



東日本大震災・原子力災害伝承館  
福島県 双葉郡双葉町  
2020年9月  
公開開始



左上から、宮城県名取市 関上地区の風景、関上の記憶の展示、北限のしらすのった海鮮丼



# 防災を学ぶ

日本では、2011年の東日本大震災のあとも様々な災害が起こっています。今後、災害で自分や大切な人を失わないように、「防災」について学んで、備えましょう。興味をもった箇所はぜひ調べてみましょう！

## 災害リスクを学ぶ



## 災害のフェーズと東日本大震災の教訓を学ぶ



## 今すぐできる個人の備えを学ぶ

### スマホアプリ

いつでも見れるようにしておこう！

例えば、特務機関NERV/防災、Yahoo!防災速報など

### ハザードマップ

自宅、大学、良くいく場所をチェック！  
仙台市ハザードマップで検索🔍  
地震以外にもあるよ！

### 避難所/場所へGO

実際に試してみることが大事！  
2019年東日本台風では東北大生の居住地域も避難が必要に…

「ぼうさい」はまさに十人十色！あなたにあった備えをやってみよう！

# 岩手県



▲奇跡の一本松



▲中心市街地の街並み

陸前高田市は岩手県で最も被害が大きく、中心部が13~17m以上の津波に襲われ、1,800名を超える方が犠牲になり、4,000戸以上の家屋が被災しました。ここでは、2012年から陸前高田市で活動を行っている「陸前高田応援サークルぽかぽか」について紹介します。

## 活動内容

2021年3月までに計81回のツアーを実施し、現在は以下の三つを活動の三本柱として掲げ、活動しています。

### ①仮設住宅での寄り添い活動

災害公営住宅や自立再建した家に移り住む人が増えている中、仮設住宅は残り一つとなりましたが、そこで暮らしている方はまだにいらっしゃいます。私たちは足湯や手芸をしながらお話しするカフェ活動や料理企画を行い、そのような方々に寄り添う活動を行っています。最後の1人までという気持ちで活動に臨んでいます。

### ②災害公営住宅・集団移転地(高台)でのコミュニティ形成支援

災害公営住宅や高台に住んでいらっしゃる方は、震災以前に住んでいた場所が様々で異なります。そのため、コミュニティ形成支援が課題となります。そこで私たちはカフェ活動や料理企画等を企画・開催することで住民さん同士がお互いに顔を合わせて交流できる場を提供し、コミュニティ形成の一助となる活動を行っています。

### ③地域行事活動の支援

震災後参加者が少なくなった、陸前高田の伝統行事「うごく七夕」や「虎舞」への参加や、NPO法人バクトの実施する子ども支援「みちくさルーム」のお手伝いなどを行っています。

## あるツアーの1日

|      |                |                         |       |  |       |  |       |       |       |       |
|------|----------------|-------------------------|-------|--|-------|--|-------|-------|-------|-------|
| 8:00 | 9:00           | 10:00                   | 11:00 | 12:00                                  | 13:00 | 14:00  | 15:00 | 16:00 | 17:00 | 18:00 |
|      | レンタカーに乗り陸前高田へ！ |                         |       | 昼食は磯ラーメン！大きなホタテが丸々一個入ってます！             |       |  |       |       |       |       |
|      |                | 先輩による震災遺構の説明を聞きながら勉強中〜。 |       | 公営住宅に到着したら、まずは会長さんに挨拶をして、早速活動の準備を始めます。 |       | 住民さんが集まってきました！皆さん楽しんでます。暑い夏にはやっぱり流しそうめんですね〜。 |       |       |       |       |
|      |                |                         |       |  |       | 宿泊施設に到着。一日の振り返りミーティングを行ったら、あとは各自自由に夜を過ごします…。 |       |       |       |       |

＜かかったお金＞

|     |         |
|-----|---------|
| 交通費 | 0円(助成金) |
| 宿泊費 | 0円(助成金) |
| 食費  | 2,000円  |
| 参加費 | 500円    |
| 計   | 2,500円  |

## メンバーの声



文学部3年 矢崎 碧

大学に入る前の私にとって東北地方はどこか遠い地域でしたが、約2年間陸前高田に関わる中で、今では高田のまちも大好きになりました。またボランティア活動を通して沢山の出会いを経験し、その度に学ぶことが多くありました。一緒に活動しているぽかぽかのメンバーとの時間もとても楽しく、かけがえのないものです。まだまだ知りたいこと、行きたいところがたくさんあります。これからもずっと陸前高田に通い続けたいです。



NPO法人バクトでの活動

お気に入りの一枚

# 宮城県

東北大学の学生は、震災直後から宮城県各地で活発にボランティア活動を行ってきました。そのなかでも石巻市を舞台に、災害公営住宅でのコミュニティ支援活動や復興の現状・課題を学ぶスタディツアーなどに取り組む「東北大学インクストーンズ」の取り組みを中心に紹介します。

## 活動内容

月に1回の頻度で、宮城県石巻市で活動しています。主な活動の一つはスタディ活動です。スタディ活動では、当時の被害の様子や今の町の状況について学ぶため震災遺構や震災伝承施設を視察したり、語り部さんとお話を伺ったりしています。学んだことをメンバー以外の学生と一緒に活動するツアーの機会を利用するなどして、情報発信や震災の伝承という点にも目を向けています。

次に手紙交換です。コロナの影響で住民さんと直接会うことが出来ないため、手紙で交流が出来ないかと考えました。様々な事情で住民さんと交流がしにくい人などにも手紙を通して悩みなどを打ち明けてもらう効果を期待しています。

また、今後の団体の方針や目的を考えるための集中会議も半期に一度行っています。震災から10年の時が経ち、団体の役目や求められていることも変わりつつあります。コロナウイルス感染拡大以前は住民さん同士が交流する機会をつくるサロン活動や地域を盛り上げる活動も行っていました。現在活動の新しい形を模索しています。過去の活動を踏襲するのではなく、今後どのような活動をしていくのかを団体のメンバーで考える重要な機会になっています。



<現地の様子>  
日和山から見下ろす門脇の景色

## あるツアーの1日

|  |  |  |  |   |
|--|--|--|--|---|
| <p><b>①出発</b><br/>朝、大学に集合したらレンタカーで石巻に出発です！石巻までは1時間ちょっと。ふらっと行けちゃうのでプライベートで遊びに行くことも笑</p> | <p><b>②伝承施設の視察</b><br/>震災伝承施設を視察したり、語り部の方にお話を聞いたりして、当時の状況や現在の地域の様子を学びます。</p> | <p><b>③昼食</b><br/>石巻には海鮮をはじめ、美味しいものがたくさんあります！活動の楽しみの1つですね！</p> | <p><b>④活動:料理企画</b><br/>住民の方と一緒に楽しめる企画を考えて行います。これはクリスマス会として、ケーキ作りをしたときの写真ですね。</p> | <p><b>⑤宿泊</b><br/>私たちは波板という地域に宿泊させていただきます。1日の活動を振り返った後は、みんなでゆっくりと過ごします。</p> |
|--|--|--|--|---|

くかったお金>

|     |         |
|-----|---------|
| 交通費 | 0円(助成金) |
| 宿泊費 | 3,000円  |
| 食費  | 2,000円  |
| 計   | 5,000円  |

## メンバーの声

**文学部3年 柏熊 夏生**

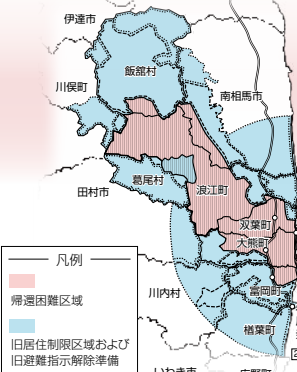
一般学生を交えたスタディツアーは、震災を伝承できる貴重な機会です。実際には経験していないことを自分の言葉で伝えるのは難しいですが、同時にやりがいも感じています。

石巻での活動を通してできた現地の人との繋がりや仲間との数々の思い出のおかげで、石巻は訪れるとたまたま！と言いたくなるような場所になりました。これからも大好きなこの町に寄り添い合える団体であらいたいと思います。

お気に入りの1枚

昨年お手伝いした夏祭りで、子供たちとゲームをした時の写真です。得点を貯めると景品がもらえるため、みんなの表情がとても真剣でした！

# 福島県



<現地の様子>  
福島県では原発事故の影響で、未だに放射線量が高い帰還困難区域が存在します。帰還困難区域にはバリケードで立ち入ることができず、震災の爪痕が感じられます。

東北大学では、2013年より福島県のいわき市や富岡町を中心にスタディツアーやボランティア活動を行っています。ここでは、県内の津波・原発事故の被害と復興の現状、ボランティアサークル「福興youth」の活動を紹介します。

## 活動内容

主に福島県いわき市、富岡町で活動している団体です。活動内容としては、住民間のコミュニティ形成を図ることを目的にお茶会や手芸等を主催したり、伝統行事のお手伝いに参加したりしています。福興youthの活動方針は以下の3つです。

- 住民の方の架け橋になり、コミュニティ形成を図る
- 変化していく福島に寄り添い、支援が必要な人の受け皿となる

主に津波被災者が住む災害公営住宅や、原発避難者向けの復興公営住宅へ定期的に訪問し、お茶会や手芸等を通して住民間・学生間の交流を行っています。具体的には七夕やお月見企画、クリスマス会など、季節に合わせたカフェ活動などを行いました。また秋祭りには子どもも楽しめるブースを出店したりと、子ども向け企画も行っています。

またいわき市薄磯地区で行われる伝統行事「例大祭」や、双葉郡楢葉町での稲刈りイベントへの参加を通して、地域の活動を支援しています。

- 福島のに触れ続け、発信していく団体となる

福島の「いま」のお話を現地の視察を交えながら伺うスタディツアーの企画運営を行っています。昨年は福興youthのメンバーのみならず、多くの東北大生が富岡町など、浜通りの市町村に足を運びました。

## あるツアーの1日

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| <p><b>①出発</b><br/>朝早く学校に集合し、バスやレンタカーで出発！福島まで約3時間のロングドライブの始まりです！</p>     | <p><b>②自治会長の方のお話</b><br/>活動前に自治会長さんのお話を聞きます。震災当時のお話を聞けるのは、参加者の方にとっても貴重な経験です。</p> | <p><b>③カフェ活動</b><br/>季節に合わせた企画を通して住民さんと楽しくおしゃべり！写真は9月のお月見企画です。</p> | <p><b>④地域の視察</b><br/>活動後は観光名所や伝承施設の見学をします！写真はいわき市の観光名所、塩谷塔灯台です。ここからの眺めは絶景です！</p> |
| <p><b>⑤夕食</b><br/>お楽しみ夕食の時間！ここは福興youth行きつけの海鮮のお店です。海鮮丼に天丼、どれも美味すぎる！</p> | <p><b>⑥宿泊</b><br/>宿泊場所に到着。振り返りした後には福興youth定番の大富豪大会です！</p>                        |  |  |

くかったお金>

|       |         |
|-------|---------|
| 交通費   | 0円(助成金) |
| 宿泊費   | 0円(助成金) |
| 食費    | 2,000円  |
| 活動協力費 | 1,000円  |
| 計     | 3,000円  |

## メンバーの声

**工学部3年 清水 陽花**

私は、団体内外の学生と一緒に福島に行き、現地で住民さんとお話したり、行政や語り部の方などから震災や福島県について学んだりするスタディ活動にやりがいを感じています。特に福島県は被災三県の中で最も原発事故の影響が大きく、未だに10年前から前に進んでいない地域もあり、参加者が現地を実際に訪れることで震災を見つめるきっかけになればと思っています。活動先を想ってボランティアの計画をたてる時はいつもワクワクします。

お気に入りの1枚

12月なので、公営住宅でクリスマス会を行いました！松ぼっくりワッペンやマカロンリース作りは老若男女問わず盛り上がりました！



# 緊急災害派遣

## 全国の災害被災地での活動

東北大学では、東日本大震災での支援活動の経験から、全国で災害が発生することに情報収集を行ない、現地の大学・団体と連携した緊急救援派遣、東日本大震災の経験伝承などを進めてきました。また災害によっては、短期的な救援活動にとどまらず、中長期的な復興支援活動も行なっています。

2018年 北海道胆振東部地震(北海道むかわ町)

2016年 台風10号(岩手県岩泉町)

2017年 (7月)豪雨(秋田県大仙市)

2015年 平成27年関東・東北豪雨(宮城県大崎市)

2019年 台風19号(宮城県丸森町)

2019年 台風15号・19号(千葉県鋸南町)



▲広島県東広島市で広島大学と合同のニーズ調査



▲オンラインで大学間合同の勉強会

2018年 大阪北部地震(大阪府高槻市)

2018年 西日本豪雨災害(広島県東広島市・呉市・坂町)

2016年 熊本地震(熊本県益城町・熊本市・御船町)

2020年 7月豪雨(熊本県/オンラインで対応)

## 宮城県丸森町での活動

2019年10月に日本列島へ上陸した台風19号は、宮城県丸森町にとりわけ甚大な被害をもたらしました。発災から1年以上が経過した現在でも、河川や道路の復旧は進まず、仮設住宅や自宅2階等での避難生活を強いられている方が多くいらっしゃいます。また災害による離散×新型コロナウイルス感染症の感染拡大から、住民同士で集まる機会が不足しており、そのなかでいかに地域コミュニティの再生・復興を進めるかも課題となっています。

東北大学では、このような状況にある丸森町で、発災直後からボランティア活動を行なってきました。活動内容は、被災家屋での泥出しや家財の運び出しなどからスタートし、サロン活動や交流企画など、地域コミュニティの再生・復興に向けた活動へと移行しています。新型コロナウイルス感染症が広がるなかでも、オンラインで現地支援団体などと情報交換・交流を継続してきました。



▲丸森町での活動の様子

### 丸森町での活動体験談

「何か役立つことがしたい」という気持ちで丸森町の家屋の泥出しをした際、1日かかってもしろしこ進まない作業に災害からの復旧がいかに大変なことがわかりました。無力感に落ち込みながらも、泥出しをしたお宅の住民さんの「ありがとう」という言葉で報われた気がしました。印象的なのは、避難所や仮設住宅で足湯やサロン活動などを行った際に「大学生が気にかけて来てくれて嬉しい」など温かい言葉をかけて頂くことです。緊急災害に見舞われた地域では、学生にできる、また学生にしかできないボランティアが必要とされていると思います。



理学部  
地球科学系3年  
吉池 奏乃

### 2020年7月豪雨での緊急対応

被害が見え始めた7月2週目から、熊本地震の支援を共に行った現地の学生と連絡を取り始めたのがきっかけです。コロナ禍での災害で現地に行つての支援ができない中、「東北からできることはないか」という想いで他の団体と情報共有や相談を続けてきました。

現在は6つの学生団体と協働して、支援の方法などを考える会議や社会人を交えた活動報告会を行なっています。支援対象が目に見えずモチベーションの維持が大変ですが、これまでの災害支援でお会いした人のことを思い浮かべながら、地味でも大事な中間支援を継続しています。



理学部  
物理系4年  
千葉 隆司

# ボランティア団体の紹介

ここでは、東北大学内のボランティア団体や東北大学生も参加する学外のNPO法人等を紹介  
します。4月のボランティアフェアでは、興味のある団体の説明が詳しく聞けますよ！

★連絡先等は各ページをご確認ください！

|    |                              |          |    |     |
|----|------------------------------|----------|----|-----|
| 01 | 東北大学陸前高田応援サークル <b>ぽかぽか</b>   | 震災<br>関係 | 学内 | 20p |
| 02 | 東北大学 <b>インクストーンズ</b>         | 震災<br>関係 | 学内 | 20p |
| 03 | 東北大学 <b>福興youth</b>          | 震災<br>関係 | 学内 | 20p |
| 04 | 東北大学ボランティアサークル <b>たなぼた</b>   | 震災<br>関係 | 学内 | 20p |
| 05 | 東北大学地域復興プロジェクト <b>HARU</b>   | 震災<br>関係 | 学内 | 21p |
| 06 | 震災復興・地域支援サークル <b>ReRoots</b> | 震災<br>関係 | 学内 | 21p |
| 07 | 一般社団法人 <b>復興応援団</b>          | 震災<br>関係 | 学外 | 22p |
| 08 | 東北大学災害伝承プロジェクト <b>もしとさ</b>   | 防災       | 学外 | 22p |
| 09 | <b>U-INSPIRE Japan</b>       | 防災       | 学外 | 22p |
| 10 | 国際ボランティア団体 <b>AsOne</b>      | 国際       | 学内 | 23p |
| 11 | 東北大学フェアトレード推進サークル <b>amo</b> | 国際       | 学内 | 23p |

|    |  |             |             |     |
|----|--|-------------|-------------|-----|
| 12 | NPO法人 <b>good!</b>                           | 国際          | 学外          | 24p |
| 13 | NPO法人 <b>NICE</b>                            | 国際          | 学外          | 24p |
| 14 | <b>アイセック仙台委員会</b>                            | 国際          | 学外          | 24p |
| 15 | <b>特別支援室・学生サポーター</b>                         | 教育・<br>学習支援 | 学内<br>(登録外) | 25p |
| 16 | NPO法人 <b>アスイク</b>                            | 教育・<br>学習支援 | 学外          | 25p |
| 17 | NPO法人 <b>キッズドア</b>                           | 教育・<br>学習支援 | 学外          | 25p |
| 18 | 特定非営利活動法人 <b>TEDIC</b>                       | 教育・<br>学習支援 | 学外          | 26p |
| 19 | <b>仙台自主夜間中学</b>                              | 教育・<br>学習支援 | 学外          | 26p |
| 20 | NPO法人アイカス国際都市<br>仙台を支える市民の会 <b>さっと日本語クラブ</b> | 教育・<br>学習支援 | 学外          | 26p |
| 21 | <b>反貧困みやぎネットワーク</b>                          | 貧困          | 学外          | 27p |
| 22 | 東北大学 <b>光のページェントNavidad</b>                  | 地域<br>支援    | 学内          | 27p |
| 23 | <b>TSALL東北</b>                               | 環境          | 学内          | 28p |
| 24 | <b>海辺のたからもの</b>                              | 環境          | 学内          | 28p |
| 25 | 高校生支援団体 <b>bridge</b>                        | キャリア<br>・若者 | 学内          | 29p |
| 26 | 一般社団法人 <b>ワカツク</b>                           | キャリア<br>・若者 | 学外          | 29p |



## 01 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか



震災関係 学内

→詳しくはP.13へ

代表: 竹内 菜々子 (文学部3年) | E-mail: tohoku.poca2@gmail.com

## 02 東北大学 インクストーンズ



震災関係 学内

→詳しくはP.14へ

代表: 笠原 沙織 (経済学部3年) | E-mail: tohoku.inkstones@gmail.com

## 03 東北大学福興youth 福興youth



震災関係 学内

→詳しくはP.15へ

代表: 大内 拓己 (文学部3年) | E-mail: fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com

## 04 東北大学ボランティアサークル たなぼた



震災関係 学内

私達たなぼたでは仙台市や石巻市の復興公営住宅を主な活動場所としています。お茶会や季節にあった様々な催しを自分たちで企画し、実際に活動することで住民同士の交流を促すと共に、学生との交流によって日々の生活での疲れを癒やしてもらえるような場を提供しています。



代表: 倉持 颯 (工学部3年) | E-mail: tanabotatohoku6@gmail.com

## 05 東北大学地域復興プロジェクト HARU



震災関係 学内

HARUは東日本大震災からの復興支援・地域再生を目的として2011年3月に結成された団体です。被災地内外の多様なニーズに対応するため2017年から石巻部門と山元部門の2部門制で現地での継続的な活動を行ってきました。石巻市では復興公営住宅にてお住まいの方たちとお茶会や工作を交えた傾聴活動をし、山元



町では、地域運動会やハロウィンイベントの企画運営や、その他イベント運営補助、また、津波で流された海岸林再生活動にも参加をしています。住民さんや他大学の学生など様々な方たちと交流したい方、子供と触れ合いしたい方、そしてもちろんボランティアに興味がある方などなど！ぜひ一緒にHARUで活動してみませんか？お待ちしております。

代表: 菅野 友哉 (教育学部3年) | E-mail: koho@haru-tohoku.org

## 06 震災復興・地域支援サークル ReRoots



震災関係 学内

ReRootsは東日本大震災で甚大な津波被害を受けた、仙台市若林区沿岸部を拠点に活動しています。対象としているのは農業が盛んな農村地域ですが、震災の影響で過疎化・高齢化が進行し、衰退の一途をたどっています。そこで、私たちは地域課題解決のため、農作業や地元野菜の移動販売、福祉企画の立案やお祭りの共同運営、地域資源の稲わらを利用した作品の制作



や子供連れを対象としたツーリズム企画など多種多様な活動に取り組んでいます。「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」を理念とし、地域住民の視点に立った活動を大切にしています。目指すのは「ひなびた持続する農村」です！日々の活動はSNSやブログをご覧ください！



代表: 石井 香帆 (農学部植物生命科学コース3年) | E-mail: rerooots311@yahoo.co.jp

## 07 一般社団法人 復興応援団

震災関係 学外



主に、南三陸町にて、地元の人を中心となる復興の実現に向けた活動、都市部向けに、震災を経て得た知見を広める活動をしています。南三陸町では地元の担い手を応援するツーリズムプロジェクト。都市部の方向けには南三陸の旬の食材の物販、実際に被災した場合をシミュレーションするワークショップなどを実施しています。



代表: 佐野 哲史 | TEL: 0226-25-9897 E-mail: dangakusei@gmail.com

## 08 東北大学災害伝承プロジェクト もしとさ

防災 学外



もしとさは東北大生が主体の防災団体で、東日本大震災の被災者の体験や教訓、想いなどを伝えていくために、南海トラフ地震で被害が想定されている高知県で地域住民、行政や高知大生と連携して防災活動をしています。宮城県内でもメンバーの興味にそって震災学習を行なっています。一緒に防災始めてみませんか？



代表: 田中 駿介 (理学部3年) | E-mail: moshitosa.vol.tohoku@gmail.com

## 09 U-INSPIRE Japan

防災 学外



U-INSPIRE Japanは、全国各地の防災に興味のある学生ボランティア・実務者・研究者が出会い、交流する広場をコンセプトにオンライン・オフラインで活動しています。そこで出会った若手がそれぞれの分野の活動やそれを越えた取り組みを共同で促進することで、日本そして国際社会の防災レベルを高めることを目指しています。



代表: 新家 杏奈 (東北大)・土田 亮 (京大) | E-mail: uinspirejapan@gmail.com

## 10 国際ボランティア団体 AsOne

国際 学内



私たち国際ボランティア団体AsOneは東北支援・海外支援・居場所作りの3つのスローガンを掲げて活動しています。特に大きな魅力として海外支援のGV(Global Village)があります。これは毎年春休みを使って2週間ほど海外に渡り、現地で住居を建てるという活動です。実際に現地に行くことでその実情を体験することができ、参加した方々にとって強い印象に残った活動になったようです。また、東北支援では震災復興公園での活動や被災地を訪れるスタディツアーなどがあります。そして、居場所作りは例年では芋煮会、スポーツ大会など様々なイベントを行っており、学年関わらずフラットな関係で楽しく活動しています！ボランティア活動に興味のある方、大学生活で楽しい思い出を作りたい方、海外に興味のある方、大歓迎です！お待ちしております！



代表: 江田 智弘 (理学部物理学科3年) | E-mail: tohoku.asone2013@gmail.com

## 11 東北大学フェアトレード推進サークル amo

国際 学内



私たちは東北大学フェアトレード推進サークルamoです！ 私たちは主に、東北大学、東北地区でのフェアトレード活動を推進しようと活動しております！  
 とここで、皆さんはフェアトレードについてどのくらい知っているでしょうか？ あまり知らないという人も、実際にフェアトレード商品を買ったことがある人もいませんか！ フェアトレードについていろいろ知っているあなたも、これからたくさん知りたいというあなたも、私たちと一緒に活動してみませんか？  
 普段の主な活動は、学内外のイベントへの参加になります！ どんなことをやっているのかなど気になったあなた！ ご連絡お待ちしております!! amoではTwitter、HPなども運営しております！



代表: 成田 恭 (文学部3年) | E-mail: amo.fairtrade.tohoku@gmail.com



## 12 NPO法人 good!

国際 学外



グッドは、若者のきっかけづくりを応援しています。主な事業は、国内外でワークキャンプという合宿型ボランティア活動。スリランカやタイの村でホームステイをしながら、井戸掘りや道路建設等を行います。現在は、海外や地域での活動が制限されているため、人と関わる機会を失った大学生のために、自然の中で仲間との出会いと交流の場を提供する「きっかけキャンプ」を企画し、実施しています。



代表:磯田 浩司 | TEL: 03-3973-1631 E-mail:info@good.or.jp

## 13 NPO法人 NICE

国際 学外



国内・海外ボランティア活動を行うNICEは1990年設立。約90か国でワークキャンプ等の各種事業を実施。日本で唯一(国際NGOの日本支部を除く)、国連・CCIVSに加盟、世界トップクラスのネットワークを持っています。日本全国・世界各地の人々とともに、多様な生態系・文化・個性が生き生きと友好共存する地球社会を開拓しています。



代表:開澤 真一郎 | TEL: 03-3358-7140 E-mail:info@nice1.gr.jp

## 14 アイセック仙台委員会

国際 学外



アイセック仙台委員会は、全国に25拠点、世界にも多くの拠点をもつ世界最大級の学生団体です。リーダーシップをもつ若者を輩出することで、人々の可能性が最大限に発揮された社会を目指しています。世界を本気で変えよう、明日をよくしようと本気で何かに取り組む経験を共にしませんか?



窓口:阿部 武(工学部3年) | E-mail:takeru.abe@aiesec.jp

## 15 特別支援室・学生サポーター

教育・学習支援 学内(登録外)



東北大を誰もが快適な学生生活を過ごせる場所にすることを目指し、障害のある学生を支援しています。授業参加に困難のある学生の補助に加えて、大学のバリアフリーマップの作成なども行っています。今年度も、大学へ行く機会が少ない学生同士が繋がりを持てる場としてオンラインでの交流会を開くなど精力的に活動しました。



連絡先:東北大学 特別支援室 | TEL:022-795-7696

## 16 NPO法人 アスイク

教育・学習支援 学外



生活保護などを受給する困窮世帯の小学生～高校生年代を対象に、県内35カ所で放課後の時間を利用し、無料の学習支援を行っております。宿題のサポートや話し相手になる等、様々な活動を通じて一緒に子どもの将来を考えていきます。在籍するボランティアの年齢や所属は様々で、多様な視点から子ども達の支援を行っています。



代表:大橋 雄介 | TEL: 022-781-5576 E-mail:info@asuiku.org

## 17 NPO法人 キッズドア

教育・学習支援 学外



経済的に苦しい家庭、ひとり親家庭、震災のダメージを受けた家庭の中高生などへ、学習支援や体験活動を提供しています。無料学習会では、一人ひとりに寄り添いながら学習サポートします。時には一緒に将来の進路を考えたり、親子関係・友人関係の悩み相談に乗ることもあります。学力とソーシャルスキルを身につけ将来社会で活躍できるよう支援しています。



代表:對馬 良美 | TEL: 022-354-1157 E-mail:tohoku@kidsdoor.net

## 18 特定非営利活動法人 TEDIC

教育・学習支援 学外



石巻で不登校や家庭状況等の困難を抱える、子ども・若者支援の団体です。大学生になって何かしたい人、自分のスキルや経験を活かし子どもに関わりたい人、一緒に活動しませんか？ ぜひ一度お問い合わせください！

※新型コロナウイルスの影響で募集や活動等が一部変更になる可能性があります。詳しくはHP、SNSをご覧ください。



代表: 門馬 優 | TEL: 0225-25-5286 E-mail: office@npo-tedic.net

## 19 仙台自主夜間中学

教育・学習支援 学外



仙台自主夜間中学では、病気や家庭の事情で、小・中学校に満足に通えなかった方や不登校・ひきこもりなどで学校に通えなかった方などが学んでいます。2014年11月に開講し、現在では、水曜日の昼・夜、金曜日の夜に仙台市内で教室を開き、10代～90代まで約50名が楽しく学んでいます。現在、4名の東北大生が活動し、学習者に寄り添っています。後継の学生ボランティアを大募集中です。



代表: 中澤 八榮 | TEL: 080-9016-6322 E-mail: sendai.yakan@gmail.com

## 20 NPO法人アイカス 国際都市仙台を支える市民の会 さっと日本語クラブ

教育・学習支援 学外

「さっと日本語クラブ」は、外国に由来を持つ小・中学生のための日本語講座です。来日したばかりの子や、言葉の問題で学校の勉強が難しい子に日本語を教えます。活動は青葉区中央市民センターで土曜日の午前です。子供達の生活がより充実するよう、スタッフ一同奮闘中です。興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。



担当: 河田 文子 | TEL: 090-6253-9684 E-mail: npo.icas@gmail.com

## 21 反貧困みやぎネットワーク

貧困 学外



反貧困みやぎネットワークは貧困・労働問題を解決するために活動しています。相談支援、調査活動によって現場の支援に取り組み、問題解決のための社会的な発信や政策提言を行います。現在は外国人技能実習生や留学生への人権侵害・貧困をなくす活動に注力しています。ぜひ一緒に貧困・労働問題に取り組みましょう。



代表: 菊地 修 (弁護士) | TEL: 090-5153-7792 E-mail: hhmiyaginet@gmail.com

## 22 東北大学 光のページェントNavidad

地域支援 学内



「Navidad」はSENDAI光のページェントユース部会の東北大学支部です！ 私たちは「学生の視点から光のページェントをより楽しんでもらうことはできないか」ということをコンセプトにSENDAI光のページェントの企画・運営に携わっています。例年は、サンタクロースに扮した参加者が行う「サンタの森の物語」というパレードの企画・運営、「おもてなしステーション」というインフォメーションセンターの運営等の活動を行っています。今年は開催内容の変更を踏まえ、ストリートビュー、エピソードコンテスト、光のページェントの歴史の紹介、モザイクアートを4つの柱にして企画・運営をしています。



私たちと一緒にSENDAI光のページェントを盛り上げませんか？

代表: 早乙女 碧 (教育学部3年) | E-mail: shizuku1041@gmail.com



## 23 TSALL東北



環境 学内

私たちは宮城県内で環境保全に関する活動を行っています。主な活動は、川崎町で里山文化と科学技術を組み合わせた「ベーシックインフラ(=生活に最低限必要な食料とエネルギー)の自給自足」を目指す団体「百-MoMo-」さんのフィールドで、里山保全や農業のお手伝い。自然の中でのアクティブな体験が魅力です！また、山元町での海岸防災林の育樹をはじめ、植樹活動や清掃活動などにも参加してきました。さらに、月1回程度メンバーが興味のある環境問題をテーマに勉強会を実施しています。活動は土日が主で、自分の興味のある活動に自由に参加することができます。「環境問題に興味がある」、「自然が好き」、そんな方のご参加お待ちしております！



アクティブな体験が魅力です！また、山元町での海岸防災林の育樹をはじめ、植樹活動や清掃活動などにも参加してきました。さらに、月1回程度メンバーが興味のある環境問題をテーマに勉強会を実施しています。活動は土日が主で、自分の興味のある活動に自由に参加することができます。「環境問題に興味がある」、「自然が好き」、そんな方のご参加お待ちしております！

代表: 吉池 奏乃(理学部3年) | E-mail: tsall\_tohoku@gmail.com

## 24 海辺のたからもの

環境 学内

環境保全と、震災からのまちづくりを行っています。海洋ごみ問題の対策として、津波被災地の荒浜等で住民と共にプラスチックごみを拾い、プラスチックごみからアクセサリーを作り販売しています。海洋ごみの調査研究の他、子どもたちとアクセサリーをつくるイベントや小学校への出前授業などが年間30件ほどあります。また、夏には海の家を運営してきましたが、今年の6月からはボタニカルカフェとしてオープンして、海浜植物を使ったハーブティーを提供しながら、海浜植物や生態系の保全を行っています。活動自体は重いテーマが多いですが、数ヶ月に1度~週3回まで、各々自分のペースで興味がある内容に関わっています。環境問題から震災、ハンドメイドや飲食など幅広く様々な興味の方が活躍できる居場所です。



活動自体は重いテーマが多いですが、数ヶ月に1度~週3回まで、各々自分のペースで興味がある内容に関わっています。環境問題から震災、ハンドメイドや飲食など幅広く様々な興味の方が活躍できる居場所です。

代表: 伊藤 帆貴(理学部3年) | E-mail: umibenotakaramono@gmail.com

## 25 高校生支援団体 bridge



キャリア・若者 学内

「高校生に架け橋を」という団体理念のもと、座談会やネット上での情報発信・進路相談対応など、高校生の皆さんと一緒に将来を見つめ直し、高校生活をより豊かに過ごせるような取り組みを幅広く展開しております。情報の地域的格差を解消し、教育の好循環を生み出せるような活動を継続していきたいと考えております。



代表: 若松 千裕(理学部3年) | E-mail: bridge.univ.tohoku@gmail.com

## 26 一般社団法人 ワカツク



キャリア・若者 学外

学生の「何かしたい」想いを、震災復興や課題解決に取り組む企業・団体に繋ぎ、サポートしています。魅力的な地域企業や社会人取材・発信する「いぐるむ仙台」、学生団体の活動を紹介する「東北1000プロジェクト」など、独自に運営する事業もあります。ボランティアや課外活動を自身のキャリアに繋がたい方はぜひ相談を！



代表理事: 渡辺 一馬 | E-mail: musubaru@wakatsuku.jp



## ボランティアと私

東北大学生は、災害ボランティア以外にも様々なジャンルの活動に参加しています。そのうち、環境系、国際系、キャリア系、教育系の活動をする学生から、ボランティアを始めたきっかけと活動の魅力を聞きました！

### 環境系：TSALL東北

幼少期を山梨県の田舎で過ごし、自然に触れるのが好きでTSALLに入りました。

仲間と環境保全や環境問題について考えながら活動しています。

地域のステキな方々と出会い協力し、農業や林業、植樹から炭窯作りまで経験できました。

様々な活動に関わってきて、ボランティアが僕の大学生活に彩りを与えてくれたと思います。

山の材をストーブの▶  
 薪材にする活動



工学部4年  
 野村 俊介

### 国際系：AsOne

僕がボランティア活動を始めようと思ったきっかけはすごく単純で、自分がぼーっと無駄に過ごす時間を人のために役立つ時間に変えたいと思ったからです。そして、約2年間活動して感じた活動の魅力は実際に自分の五感で現地の状況を体験することができる点だと思っています。実際に現地に行くことで得られる思わぬ発見や出会いがあり、それらが今の僕をボランティア活動に駆り立てる一つの原動力になっています。

震災復興公園で植樹祭のお手伝い▶



理学部3年  
 江田 智弘

### キャリア系：bridge

私は高校時代に進路選択で苦い思いをした分、高校生の手助けをしたい、自分の二の舞になって欲しくないと思っていました。だから、自分の思いを直接高校生に伝えられることがとても嬉しいです！企画の準備など大変なことはたくさんありますが、それ以上にこれまで多くの有意義な体験ができたと思います。



理学部3年  
 若松 千裕

◀ 中高生向けイベントで  
 アイスブレイクを表演中

### 教育系：アスイク

教えることが好きだった私がアスイクに参加したのは、貧困問題にも関心があったからです。

勉強、ゲーム、相談、様々な過ごし方を子どもたちはしています。

活動の魅力は、子どもたちが育ち次の世界へ旅立っていく、その過程を共に喜びあえる環境です！

同じ思いの仲間との出会い、子どもからの学びなど得られる事も沢山です！

学習支援の様子▶



情報科学研究科修士1年  
 名古屋 雄大